

2021年3月31日

パルシステム東京様「平和カンパ 2020年度 年次活動報告書」

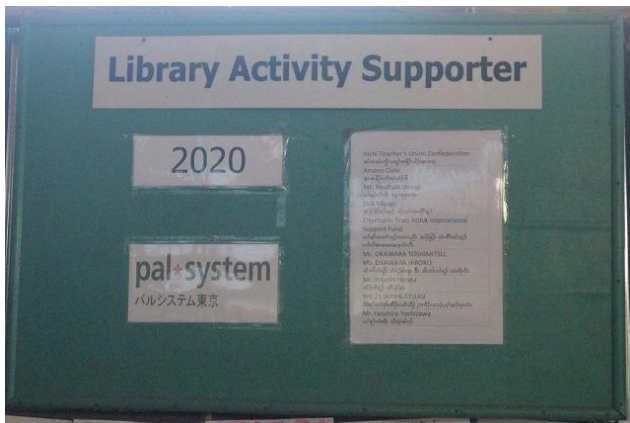
生活協同組合パルシステム東京様の平和カンパにより、昨年に引き続き、タイ・ミャンマー(ビルマ)国境沿いにあるメラ難民キャンプ第1図書館、第5図書館でのノンフォーマル教育事業を支援することができました。難民の心に寄り添うコミュニティ図書館へのご支援を、誠にありがとうございました。

●事業概要●

事業対象地：タイ国境 7カ所のミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ

事業名：ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業

対象者：2020年度図書館利用者 延べ5,794人(第1図書館) 延べ11,140人(第5図書館)



●難民キャンプを取り巻く現状●



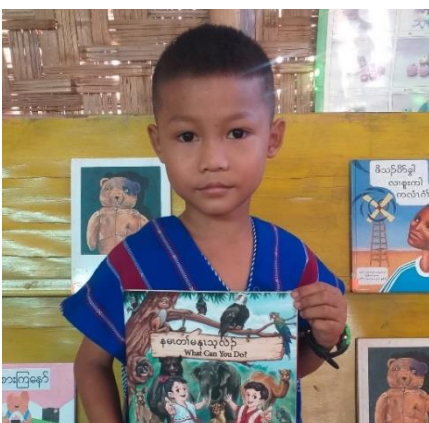
<メラ難民キャンプで配給物資を待つ人の様子>

タイ国境にある9カ所のミャンマー(ビルマ) 難民キャンプには、現在約9万1千人が暮らしています(出典：UNHCR Thailand)。2012年以降の停戦合意を受けて2016年からタイ政府・ミャンマー政府の合意の下での帰還プログラムが開始され、2019年7月までに約1,040人がミャンマー側へ帰還しました。しかし、新型コロナウイルスの国際的な感染拡大により5回目の帰還を延期していたところ、2021年2月にミャンマー国内でクーデターが発生し、帰還プログラムの先行きが不透明となりました。近年、難民キャンプ内への支援は減少し続け、国際NGOの事業縮小または撤退が相次ぎ、難民キャンプでの今後の暮らしに不安を持つ人々が増えていました。第三国定住プログラムの終了以降、事実上の唯一の帰還先であったミャンマー国内の情勢が不安定となり、キャンプ住民の不安はさらに高まっている状況です。将来への不安をできる限り取り除けるよう、継続した支援が求められています。

●事業目標と実施した活動●

事業目標
カレン難民委員会教育部会との協働により、コミュニティ図書館活動を通して難民キャンプの住民が将来の選択をするための知識・技術と帰還に関する情報を習得する。
活動内容
<p>タイ国境の難民キャンプ(9か所)の中で最大規模のメラ難民キャンプには、2020年12月末時点で34,320人が生活しています。新型コロナウイルスの影響により一時的に図書館を閉館した時期もありますが、現在は感染対策(マスクやフェイスシールドの着用、入館前の検温、同時利用人数の制限など)を取りながら開館しています。</p> <p>① コミュニティ図書館活動：子ども用の絵本や大人用の新聞、学習参考書、小説などを図書館に配架しました。図書館では図書の貸出以外に、読み聞かせ、歌、ゲーム、塗り絵、折り紙など様々な活動を実施しています。2020年の図書館利用者数は5,794人(第1図書館)、11,140人(第5図書館)でした。</p> <p>② 定例会議の実施：図書館関係者を集めて5回(1月、3月、6月、9月、12月)の会議を開催しました(月平均の参加者：約20人)。3月以降の会議では主に新型コロナウイルス対策について話し合い、入館前後の感染防止策を取りながら図書館サービスを継続することを確認しました。</p> <p>③ 情報提供活動：図書館外に設置している情報掲示板および図書館内に設置しているパソコンを通じて、キャンプ内の生活および今後の帰還に関する最新情報や新着図書について発信しています。第1図書館、第5図書館に2台ずつパソコンを設置しており、年間で延べ956人が利用しました。</p> <p>④ 学校への移動図書箱活動：メラ難民キャンプ内のすべての学校、寄宿舎、国際NGOの事務所などを対象に移動図書箱活動を実施し、図書館の蔵書の中から教員や学生が選んだ図書を箱に詰めて長期間貸し出しました。2020年に1,964冊の本がこの活動によって貸し出され、授業や自習に活用されました。</p>

ソー・ムー・クポ・セイくん(9歳 メラ難民キャンプ図書館利用者)



僕の名前はソー・ムー・クポ・セイです。僕は3人兄弟の次男で、家族5人で暮らしています。家では水汲みや掃除の手伝いをしています。時間があるときには図書館に行ったり、友達とサッカーをしたりします。学校が好きで、授業で特に興味があるのは保健です。内容が分かりやすく、普段の生活で気を付けるべきことが身に着くからです。自由な時間があればいつも図書館に行って色々なことを学んでいます。お気に入り「あなたにできることは？」という絵本で、動物たちの特長について知ることができます。図書館では、友達と一緒にできるゲームと読み聞かせの活動も楽しんでいます。図書館員の人たちはとても気さくで親切です。僕は野菜を植えて育てることが好きなので将来は農家になりたいと思っています。図書館を支援して下さる日本の皆さん、本当にありがとうございます。これからも僕たちのことを思い出してくれたら嬉しいです。